

平成 30 年 9 月の解説（府県天気予報）

【9 月の天候状況】

上旬は、北日本や東日本、西日本では、台風第 21 号や低気圧、秋雨前線の影響で、曇りや雨の日が多くなりました。4 日には台風第 21 号が徳島県に上陸し、東日本や西日本で大雨となった所があったほか、近畿地方を中心に記録的な暴風となり、沿岸では高潮による被害も発生しました。5 日以降は秋雨前線が本州付近に停滞し、前線に向かって南から湿った空気が流れ込んだため、東日本や西日本を中心に大雨となりました。沖縄・奄美では、高気圧に覆われて晴れた日もありましたが、湿った空気や熱帯低気圧の影響を受けやすかったため、降水量は多くなりました。8 日から 10 日にかけて、大陸から日本付近に寒気が流れ込んだ影響で、西日本では気温が低くなりました。

中旬は、北日本は移動性高気圧に覆われやすく、北海道地方を中心に晴れた日が続き、北日本太平洋側では少雨となりました。一方、東日本や西日本では、天気は数日の周期で変化しましたが、前線や湿った空気の影響を受けやすかったため、西日本と東日本太平洋側では曇りや雨の日が多くなりました。20 日は西日本付近に停滞した秋雨前線に南から湿った空気が流れ込んだため、広い範囲で雨となり、九州北部地方では大雨となった所がありました。北日本と東日本、西日本の気温は、期間のはじめと終わりに大陸の寒気が南下して平年を下回った一方、期間の中頃は南から暖かい空気が流れ込んで平年を上回りました。沖縄・奄美では、期間の前半は湿った空気の影響で曇りの日もありましたが、後半になると高気圧に覆われ、晴れて気温も上昇しました。

下旬は、北日本や東日本、西日本では、天気は数日の周期で変化しましたが、秋雨前線や低気圧、台風第 24 号の影響で、曇りや雨の日が多くなりました。沖縄・奄美でも、24 日頃までは高気圧に覆われて晴れましたが、その後は前線や台風第 24 号の影響を受けたため、曇りや雨の日が多くなりました。台風第 24 号は、29 日に沖縄・奄美に接近、30 日に和歌山県に上陸し、東日本を強い勢力で通過しました。このため、東日本や西日本、沖縄・奄美の広い範囲で大雨となったほか、記録的な暴風となった所もあり、多くの被害が発生しました。気温は、南から暖かい空気が流れ込みやすかったため、北日本と沖縄・奄美では高くなりましたが、本州付近には 25 日から 28 日にかけて寒気が流れ込んだため、東日本や西日本では平年並となりました。

月平均気温は、沖縄・奄美ではかなり高く、北日本で高く、東日本と西日本では平年並でした。月降水量は、東日本と西日本ではかなり多く、沖縄・奄美で多かった一方、北日本では少なくなりました。月間日照時間は、東日本と西日本ではかなり少なく、北日本と沖縄・奄美では平年並でした。

【9 月の検証結果】

17 時発表の天気予報による「降水の有無」の全国平均の適中率は、明日予報は 83%で例年値(注)より 1 ポイント高く、明後日予報は 79%で例年値より 2 ポイント高くなりました。地方別の適中率では、明日予報は東海地方と九州北部地方、九州南部地方、沖縄地方以外では例年値を上回り、特に北陸地方では例年値よりも 8 ポイント高くなりました。明後日予報は北日本と北陸地方、中国地方、九州北部地方で例年値を上回り、特に東北地方では例年値よりも 8 ポイント高くなりました。

明日の最高気温の予報誤差は、全国平均で例年値より 0.1℃小さい 1.6℃で、北陸地方と中国地方、九州南部地方以外では例年値以下となりました。最低気温の予報誤差は、全国平均で例年値より 0.2℃小さい 1.1℃で、すべての地方で例年値を下回りました。

(注) 例年値は気象庁HP（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【11月の天気予報の利用にあたって】

11月には冬型の気圧配置となる頻度が次第に増え、北日本や日本海側を中心にみぞれや雪の降る日が多くなります。また、真冬に比べると気温が高いため、まだ本格的な雪の季節に入るわけではありませんが、雪が降れば視界が悪くなり、積雪や凍結により路面が滑りやすくなるなど、降雪量が少なくても交通や生活に大きな障害となります。雪の予報や雪に関する気象情報に気をつけて、雪への備えを心がけてください。